



再び雲隠れした 将来OD表

2000年のポンポコ発足から21年半、現在も東京外かく環状道路のPI委員として交通を中心とした情報収集と分析を一人、コツコツと続けています。外環は昨年度の事業評価以降も事業費増加の要素が増えています。全国の高速道路について2014年からの定期点検が一巡し想定以上の劣化や損傷が見つかり無視できない状況です。「将来OD表」を巡る経緯も報告します。(江崎)

参 考

- <http://p-report.jp.org>
- 書籍『公共事業と市民参加』学芸出版社

喜多見ポンポコ会議

2021年8月29日発行

外環の事業評価と今後

(1) 事業費は当初の2倍、B/Cは当初の3分の1

国土交通省は公共事業について、新規事業採択時評価、再評価、事後評価の三段階で事業評価を行うことになっており、昨年度、3回目の再評価が行われました。事業費は当初の2倍、費用便益比(B/C)は3分の1に低下しました(表1)。

(2) 事業費はさらに増加する見込み

調布市で発生した陥没や空洞に関連した地盤補修と住民への補償¹⁾2)、今後の掘進区間で懸念される地盤5箇所の確認²⁾、青梅街道IC地中拡幅部の構造変更、海上運搬から陸送への変更³⁾など事業費はさらに増加しそうです。

(3) 高速道路に税金投入？

8月4日に公表された国土交通省国土幹線道路部会の中問答申によれば「高速道路の更新や進化の取組を将来にわたり継続的に実施するために必要な財源を担保することは

不可能」だとして高速道路有料期間の延長に向けた検討を求めています。費用負担については「利用者による負担を基本とする」という一方で「過度な利用者負担により交通量が減少し、高速道路が有効活用されない可能性がある」ので、「税金により負担することも必要」だとしています。

(4) 今後、外環のB/Cはどうなるか

ここで重要な数字が道路交通センサスに基づく「将来OD表」です。基礎データに2015年度版を使えば交通量はさらに減少し(図1)、外環のB/Cは1を下回る見込みです。

ところがこの「将来OD表」は、かつて存在することさえ公にできないとされ、2005年度版はスムーズに入手できなかったものの、2010年度版は隠し続けられ、2015年度版は再び雲隠れしてしまいました。(裏面:「将来OD表」を巡る経緯参照)

新型コロナウイルスの感染拡大、東京五輪で整備された施設の収支、無観客開催による収入減、そして道路、国民・都民の将来負担は増すばかり、事業の精査が必要です。

表1 外環の費用便益分析の経過

	2009年度 新規事業採択時評価	2013年度 再評価	2016年度 再評価	2020年度 再評価
基礎データ	2005年度 道路交通センサス	2005年度 道路交通センサス	2005年度 道路交通センサス	2010年度 道路交通センサス
交通量の推計時点	2030年度	2030年度	2030年度	2030年度
計画交通量(台/日)	88,900~100,800	75,900~95,600	76,200~96,200	72,600~92,200
事業費	1兆2,820億円	約1兆2,820億円	約1兆5,975億円	約2兆3,575億円
費用便益比(B/C)	2.9	2.3	1.9	1.01



図1 外環利用区間の実績・推計交通量集計結果(全車)

表2 【2016年度再評価】外環事業費増加の要因と金額

	項目	増額
1	地中拡幅部(東名JCT)の構造変更	約490億円
2	大泉JCT本線ランプ接合部の工法変更	約462億円
3	地中拡幅部の技術開発業務・追加地質調査	約20億円
4	セグメント・床版構造の構造変更	約911億円
5	横連絡坑の構造変更	約195億円
6	発生土中性固化材改良・仮置場整備	約676億円
7	発生土受入先変更	約391億円
8	埋蔵文化財の発掘	約10億円
	全体事業費の増額計	約3,155億円

表3 【2020年度再評価】外環事業費増加の要因と金額

	項目	増額
1	-1 地中拡幅部(中央JCT)の断面形状変更	約1,130億円
	-2 地中拡幅部(中央JCT)の工法変更	約3,365億円
	-3 地中拡幅部(中央JCT)の構造変更	約865億円
2	大泉JCT側本線シールドにおける地質調査を踏まえた軟弱地盤対策・耐震検討の追加	約670億円
3	東名JCTにおける本線シールドトンネルの掘進方法及びヤード構造の変更	約210億円
4	中央JCTにおける地質調査・地下水調査を踏まえたJCT構造等の変更	約780億円
5	大泉JCTにおける現地地質条件を踏まえたトンネル構造等の変更	約580億円
	全体事業費の増額計	約7,600億円

「将来OD表」を巡る経緯

道路交通センサスには、道路を断面でみる一般交通量調査と、地域間の自動車の動きをみる自動車起終点調査(起点 Origin と目的地 Destination でOD調査と言う)があります。OD調査の結果を行列の表形式にしたものが「現況OD表」、将来推計したものが「将来OD表」です。

年月	出来事
2001. 10	環境省で報告書「大気環境の動向予測調査」(図2)を入手 解説/手書きメモから、存在することすら公にできない「将来OD表」というデータがあることを知る
2002. 04	東京都への開示請求で「東京都の自動車交通の実態」を入手 解説/現況ODを分析した報告書。請求時に東京都から「個人のプライバシーに関係するので公開するかどうかは国と協議して決めます」と言われ、受け取りに行くに担当職員に取り囲まれて驚く
2002. 06	PI外環沿線協議会開始(国土交通省・東京都主催)写真1 解説/月2回、2004年10月まで計42回、国・都・7区市・住民で構成
2002. 10 ~11	ポンポコ主催3回連続ワークショップ「みんなで外環を考えてみよう!」開催 解説/皆さんの関心事を整理し、交通に関心が高いことが分かる
2003. 03	ポンポコ研究会開始 解説/ワークショップを発展させ、交通需要予測の勉強から始める。2011年11月まで計20回
2003. 07	第24回PI協議会に国が「交通の分析」を提出 解説/外環の交通量推計の前提条件が書かれたもの。ポンポコ研究会で疑問を出し合い、国の担当者を招き意見交換(写真2)、10月の協議会でOD表公開を要請、12月に開示請求した
2004. 03 ~04	第11・12回ポンポコ研究会でOD表を計算(写真3) 解説/OD表は、国の研究機関や調査を実際に行った都道府県でも入手が難しく、入手できたとしても紙出しで手入力が必要、「配分計算しない」という条件付きとされ、「門外不出のOD表」と呼ばれていた。11月段階では紙出しの可能性もあると言われていたが現況OD表(1999年度版)を Excel ファイルで入手することができた。例えば2010年度版の現況OD表で約200万のデータ量がある
2005. 01	PI外環沿線会議開始(国土交通省・東京都主催) 解説/PI協議会の続編、2007年10月まで計26回、未終了
2009. 06	2005年度版の現況OD表を入手
2010. 08	2005年度版の 将来OD表 を入手
2015. 02	2010年度版の現況OD表を入手
2015. 03	本省道路経済調査室「交通流推計手法の精度向上に関する検討業務報告書」(図3) 解説/2018年5月に入手。報告書によれば、遅くとも2015年3月には2010年度版の 将来OD表 が本省から各地整へ配布されていたことが分かる
2016. 03	パシフィックコンサルタンツ「関東管内交通量推計検討業務報告書」(図4) 解説/2018年2月に入手。関東地整へ何度聞いても「本省から届いていない」「作業中」だと言われ、 将来OD表 に関連すると思われる本書を開示請求。2015年4月には地整に存在していたことが分かる
2018. 03	2010年度版の 将来OD表 を入手
2018. 04	P-REPORT 付録で「OD表の計算方法」を紹介(図5)
2019. 03	パシフィックコンサルタンツ「H30関東管内交通量推計検討業務報告書」 解説/2019年6月に入手。2015年度版の現況OD表が含まれている
2020. 06	本省道路経済調査室「道路ネットワークにおける交通量配分手法に関する検討業務報告書」(図6) 解説/2020年8月に入手。報告書によれば、遅くとも2020年6月には2015年度版の 将来OD表 が本省から各地整へ配布されていたことが分かる
2021. 07	「R2鎌倉市域におけるロードプライシングの導入・実現に向けた検討業務報告書」 解説/関東地整へ委託業務名等を開示請求し、これが2015年度版の 将来OD表 の作成業務だと分かる。受注者は「パシフィックコンサルタンツ・計量計画研究所設計共同体」。現在開示請求中



図2 表紙と手書きメモ

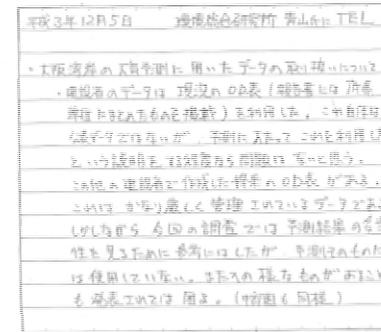


図3 表紙と業務フロー



図4 表紙と業務概要



図 2-3 本業務における将来 OD 表作成の全体フロー

第1章 業務概要

1-1 業務目的
本業務は、平成22年度道路交通センサス得るOD表に基づき、関東地方整備局管内の将来交通需要を推計、分析し、今後の道路事業の基礎資料を作成する。

1-2 業務内容

- ① 計画準備
- ② 現状及び将来ODの分析
- ③ 将来ネットワークの作成
- ④ 配分経路選択手法に関する検討
- ⑤ 関東管内将来交通量推計
- ⑥ 関係機関配布用資料作成
- ⑦ 道路ネットワーク整備後における効果検証指標に関する検討
- ⑧ 報告書作成

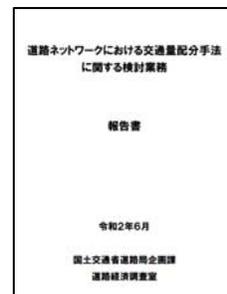


図6 表紙と業務フロー



図 本業務における将来 OD 表作成の全体フロー



写真1 PI外環沿線協議会



写真2 ポンポコ研究会



写真3 ポンポコ研究会



図5 P-REPORT 付録

- 1) NEXCO東日本「東京外かく環状道路工事現場付近での地表面陥没事故等について」2021.4 説明会資料
- 2) 東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会「報告書」2021.3
- 3) パシフィックコンサルタンツ「R2年度東京外環交通運用検討業務報告書」2021.3